

第 207 回 MINERVA ビジネスプラン発表会

【平成 31 年 5 月 14 日(火) 開催 会場: 岩崎学園 (新横浜 1 号館 8 階)】

1. 株式会社カタナコーポレーション 代表者 藤田 信夫 氏 (<http://catana.co.jp/>)

【住所】 静岡県浜松市北区新都田 1-2-1 ミリアセンター3F 【設立】 1999 年 3 月 【資本金】 10,000 千円

【事業概要】 リアルタイム高速可逆圧縮ソフトウェア「CVC シリーズ」

<概要> 処理遅延が極端に少ない可逆データ圧縮ソフトウェア及び FPGA IP を開発・販売しています。

可逆データ圧縮とは、データを圧縮・展開しても情報が全く劣化しない方式のデータ圧縮技術で、一般的には ZIP、PNG 等が広く使われていますが、従来の符号化を利用したアルゴリズムは低速かつ時間保証が無いなど、リアルタイム用途で使うことが困難でした。

弊社が独自開発した CVC 方式では、時間変動が発生しないデータ変換をベースにしたアルゴリズムで、映像・アナログ波形などの情報を固定の遅延で圧縮することが出来、遅延が問題となる遠隔制御等で特に真価を発揮できます。

<現状の用途>

- ・ADAS(先進運転支援システム)、自動運転システムの開発
- ・機械学習の学習データ保存
- ・製造工場(自動車、半導体、食品)におけるトレーサビリティ(検査情報の全数蓄積)
- ・製造工場、研究機関の IoT データの蓄積・通信

<今後の展開> データ圧縮技術は情報社会の中で基盤となる技術であり様々な応用が考えられますが、以下のようなビッグデータかつデータの完全性を保証する必要がある用途を模索しています。

- ・車載応用(自動運転用データレコーダ、遠隔運転制御、電子ミラー等の画像圧縮通信)
- ・インフラ応用(鉄道架線検査、道路検査等の画像圧縮保存)
- ・セキュリティ応用(高画質監視カメラ等の通信) 等

【コメント】 現在、特にニーズがあるマーケットは自動運転システムだそうです。今回は、①販路開拓(医療、クラウド、セキュリティ)、②海外展開協力(ドイツ、米国、中国)、③ASIC・LSI 化に関する協力、④開発人材(組込ソフト、FPGA IP)、⑤それに必要な資金の支援を求められておりました。

2. DISCOVER株式会社 代表者 千葉 史生 氏 (<https://dis-cover.jp/>)

発表者 COO 土屋 健司 氏、Director 長井 浩紀 氏

【住所】 東京都渋谷区渋谷 1-7-5 青山セブンハイツ Shared office 内 【設立】 2016 年 11 月

【資本金】 3,000 千円

【事業概要】 まだ見たことのないものを発見する「動画ショッピングサイト」の運営を行うスタートアップです。テーマは「世界の新しいモノ・サービスを日本へ、日本の新しいモノ・サービスを世界へ」をテーマに、ユーチューバー・インフルエンサーやライブコマースを活用した動画ショッピングプラットフォームを展開しており、IoT ガジェットを中心にこれまで 400 プロダクト以上を扱っています。

今後は日本のメーカーを世界へとつなげるプラットフォームの構想もあり、世界に通用する動画プラットフォームサイトへと成長させていきます。

【コメント】 この分野のターゲット層は 30 歳男性で新しいもの好きな人だそうです。米国、台湾、香港のアライアンスパートナーと組んで、リアルな情報を収集出来る体制が整っておりますので、2 年後には取引先を 100 倍に増やしたいとおっしゃっておりました。

3. 株式会社ミエルカ防災 代表者 松尾 勇二 氏 (<http://mieruka.co.jp/>)

【住所】 東京都千代田区神田須田町二丁目 25 番地 山崎須田町ビル 3F 【設立】 2013 年 10 月

【資本金】 129,050 千円

【事業概要】 今後 30 年間で発生する確率が 70%とされている首都直下型地震(M7)や南海トラフ沿いの大規模地震(M8 から M9)、地震大国日本では、巨大地震は身近な存在です。こうした巨大地震が起きれば、人命はもとより、インフラ、ライフラインに至るまで、その被害は甚大なものになります。弊社の開発した「ユレーマス」システムは、地震計を設置した建物や周辺地域に特化することで、初期微動(P波)の検知とほぼ同時に主要動(S波)の大きさを計算し、この情報を事前に通報するのが難しいと言われている直下型地震にも対応できる独自の地震速報として、即座に利用者様へ提供します。より早く、より高精度な情報を提供することにより、高層ビルにおけるエレベーターの閉じ込め事故防止、生産ラインの損害を最小に食い止め、早期復旧を可能にする.....、地震対策は数秒の差がカギを握ります。

現在、三菱地所様・ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング様等に、本格導入をいただいております。

今後、医療機関や公共交通機関への導入により、さらに多くの生命を守り、重大事故の防止に大きく寄与することができると確信しております。また、ネットワーク化により、「ユレーマス」の予測の制度をより高め、発報時間を短縮することができます。導入いただいた利用者様だけでなく、地域社会全体の防災力向上を目指し、多くの皆様に関心を持っていただけることを、切に願っております。

【コメント】 猶予時間として 5 秒あれば、死傷者は 80%軽減されると言われております。ユレーマスサービスエリア内の中小規模事務所、テナント、店舗、クリニック、飲食店、学校等にスマート地震情報端末「ユレマモリ」も設置すれば、地震の大きさを 4 段階で表示し、音声と色で知らせてくれるので、被害を最小限に留めることが可能になります。



《感想》 今回も様々な分野の企業に御発表頂きました。いずれの企業も新しいマーケットを開拓していこうとされておられて、今後の展開が楽しみです。もし今後、発表会での発表をご希望される企業がいらっしゃいましたら、お早目にご連絡をお願い申し上げます。

NPO 法人ベンチャー支援機構 MINERVA
(株)TNP パートナース、(株)TNP オンザロード
井汲 美樹